

## 1. これからの世界における町工場・中小企業の役割

日本の町工場・中小企業は終戦後、資源の乏しいながらも京阪神を中心に急激に発展し、高度成長期には特に少人数の製造業が多数林立しました。いわゆる町工場・中小企業のパワーをもって戦後復興と高度成長を成し遂げてきました。

現在において大企業はこの町工場・中小企業の高い技術力の恩恵を受けているはずですが、大企業としての社会的責任を置き去りにし、町工場・中小企業を確たる企業に育ててこなかった事はこれからの時代に向け大きな後悔を残すでしょう。林立した町工場・中小企業もほとんどが時代の波に淘汰され、生き残った町工場・中小企業も大企業の利益のクッション役としての位置付けしか無く、そこで働く労働者達の希望が薄れていく事に危惧を覚えます。

## 2. 町工場・中小企業の今後の動向

町工場・中小企業とそこで働く労働者にとって、その高い技術力を正当に評価される社会が望ましい事は当然です。しかし今後世界に目を向けた時、町工場・中小企業の位置付けと動向が未知数である事が希望に繋がらない一因と思われます。

## 3. 町工場・中小企業に働く若者たちの意識

これからの日本の町工場・中小企業を本来あるべき姿を求めて発展させる事はそれぞれの経営責任として当然ですが、物余りの時代に成長してきた若者達に今の町工場・中小企業の現状に夢と希望を持つ事は難しいと言わざるを得ません。

未来に夢と希望を持ってないという事は、やがては町工場・中小企業の有能な技術者の減少及び衰退に繋がります。それに対し何らかの行動を起こすのは、困難ですが経営者の義務でもあります。今すぐに夢と希望を持てるようにする事は非常に難しい問題ですが、その意識に何らかのアドバイスをもって夢と希望を育み、若者達が潜在的に持っている技術を引き出す事には大きな可能性があります。

## 4. 町工場・中小企業における品質管理、品質保証の基本的な意義

私ども製造業に携わる者にとって製品は至極当然に良品を製作しますが、人の手による事には限界があり不良品との宿命的な係わり合いが発生します。

その製造者にとってある程度の不良品は仕方の無い事と甘んじている部分はあります。一転、ユーザーの立場にとってみれば不良品の有無はその製造者の評価となります。製造者もユーザーも品質管理、品質保証の持つ基本的な意義をよく理解し、現状を認識して生活に望むのも知恵の一つではないでしょうか。